

学校教育目標	
◎主体的に学ぶ態度を育成し、確かな学力を身につけさせる。 ◎コミュニケーション能力を高め、健全な社会性を身につけさせる。 【知】知的関心を高め、主体的に取り組む態度を養い、他者との協働の中から、思考力、判断力、表現力その他の能力を育てる。 【徳】豊かな体験を通して心の育成を図ると共に、望ましい姿を志向する姿勢を育てる。 【体】安全を志向する姿勢と健やかな体を育てる。 【公】郷土を愛し、社会の一員としての自覚を促し、進んで社会貢献する姿勢を育てる。 【関】コミュニケーション能力を養い、社会の中で、他者と共生していける力を育てる。	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
次代の社会をつくる力を育む	具体化した資質・能力 ＊共生社会を形成する意識（知識や技能） ＊主体的に社会参画する姿勢（思考・判断・表現） ＊持続可能な社会の創造に貢献しようとする 態度(学びに向かう姿勢や人間性)

中期取組目標
◇学校教育力を高めるため「チーム大道」を合言葉に職員相互の結束を強め、地域や協力機関と積極的な連携を進めます。 ◇誰もが安心して過ごせる学校づくりを推進するため、人権教育の推進や教育相談などの共感的生徒理解の充実を進めます。 ◇生徒の自ら学ぶ姿勢と自己有用感の向上を図るため、授業方法の改善や特別支援の視点を取り入れた指導を進めます。 ◇生徒の多角的な考え方や共生感覚・社会参画意識を高めるため、横断的な学習や地域・協力機関との連携強化を進めます。

**学力向上アクションプラン**

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①日常やテスト前の学習相談の機会をとらえて、理解が不足している生徒に対して適切な助言を行う。 ②教材を工夫し、だれもが達成感を持つ授業展開を行う。 ③生徒の学力の定着状況を定期的に確認する。また、授業評価を定期的に行い、教職員の授業改善につなげる。 ④主体的に取り組む学習として「総合的な学習の時間」の改善を図り、更に充実させる。
担当	教科計画部

**学力向上に関わる本校の状況**

(1) 学力に関わる児童生徒の実態  
 学力は全体的に横浜市の平均とほぼ同等か、やや下回る傾向で、学年・教科により学習意欲に差がある。学習意欲・生活意識と学力層とのクロス集計分析によると、学年が上がるに連れて、生活習慣に乱れのある生徒の割合が増加し、それが学習意欲の低下に繋がっていることが想定される。

(2) これまでの学校の取組状況  
 教職員を3つのグループに分け、相互で見合う授業研究の時間を年に2回以上設けて、個々の授業力向上に尽力している。今後の課題としては、生徒の学習意欲の高い教科の指導法を参観し、個々の教科にいかす授業研究をする必要がある。  
 また、規則的な生活習慣の大切さを指導し、学力向上につなげたい。

今年度の目標
学習意欲および基礎学力の向上を図り、協働活動の中から思考力、判断力、表現力を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	言葉についての感覚を豊かにすることにより、言葉の価値を認識し、国語で適切に表現する力を育てる。(国語)社会科学習に対する興味・関心を高めさせながら、基礎・基本の定着を図る。(社会)課題を見だし、その解決の構想を立て、それに基づいて解決する力を育成する。(数学)問題解決の楽しさを味わい、自然現象への興味と関心を広げ、積極的に学び続ける力を養う。(理科)表現活動や鑑賞を通して、他者を尊重し、お互いに学びあう姿勢を育てる。(音楽)表現及び鑑賞の活動を通して、自ら考え、判断し、自己解決しながら、作り出す喜びや感じる楽しさを味わい、自分のよさや可能性を伸ばす。(美術)運動や健康に関する知識や技能を身につけ、課題解決のための能力や健康の保持増進に努める実践力を育てる。(保健)生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、実践しようとする意欲的な態度を育てる。(技家)外国語およびICT機器の活用を通じて、コミュニケーションに関心を持ちながら、外国語で話したり書いたりして、自分の考えや意見などを表現する力を育てる。(英語)集団の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な取り組みができる活動を設定する。(道徳)実社会、実生活との関わりを重視し、探究の過程が繰り返されまる学習活動を展開する。(特活)個別の指導計画に基づき、個々のニーズに応じて指導の充実を図る。(総合)自主的に取り組める課題や活動を設定する。(個別級)
下半期	言葉の価値や自己形成との関わりを認識し、適切に表現する能力を育てる(国語)国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として生きぬくために、自ら考え、表現し、実践できる力を養う。(社会)基礎となる知識や技能を身につけ、互いの考えを伝えあい、生活に生かそうとする力を育成する。(数学)自然に興味をもち、生命を尊重し、自分や他の人の生命と体を大切にすることをすすべきかを考え実践する姿勢を育てる。(理科)色々な音楽にふれることにより、感性を豊かにし、自分らしい表現力を育てる。(音楽)様々な文化や芸術に親しみ、理解を深めることを通して、社会と積極的にかかわる姿勢を育てる。(美術)運動やスポーツを通してはぐくまれる社会性の育成と、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。(保健)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を育成する。(技家)言語やその運用についての知識だけでなく、その背景にある文化や習慣などを理解させる。(英語)物事に多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習展開をする。(道徳)自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養える活動を設定する。(特活)探求の過程で「具体的な」資質・能力を養い、実社会、実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けられる体験的学習活動を展開する。(総合)個別指導計画に基づき、個々のニーズに応じて指導の充実を図り、知識や技術を生活に生かせるように支援する。(個別級)

**豊かな心の育成推進プラン**

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①委員会活動や行事における活動の中で、生徒が目標を意識して主体的に行動できるような働きかけを行う。 ②体験を通して成長した点を自覚させ、行事以外の日常生活の場でもより良い生活をめざしていける集団づくりを行う。 ③道徳の授業を充実させ、生徒個々の道徳性を涵養する。
担当	特活指導部 道徳係

豊かな心に関わる本校の状況
・子どもたちは率直で素朴な人柄で、音楽や美術等の芸術に関心が高い。人とのコミュニケーションが苦手である。将来への展望を見だしきれていない生徒もいる。その背景には自己肯定感が低いことが考えられる。 ・生徒会活動や委員会活動では、積極的に参加する生徒は多いが、リーダーシップを発揮できずに集団を引っ張る力に乏しい。学級内の小集団から学年や学校全体の関わる大集団での経験の機会を設けて、自己肯定感を高める必要性を感じている。 ・地域人材を登用して、専門的な知識を得るとともに社会参画について考える機会があることは継続して取り組んでいきたい。 ・発達段階に合わせて、「いのち」の大切さについて考える機会を持ち、専門家の講演会を受けてより深い学びへとつなげている取り組みを行っている。

今年度の目標
道徳の授業や体験活動を通して、主体的に社会参画する姿勢を育み、持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・各学級の道徳の時間と、学校の教育活動全体を通して行う道徳との関連を図り、体験活動を活かした指導を行う。道徳研修会、授業研究会を実施し、道徳科の授業づくりについて研修し、指導に生かす。 ・学級組織や生徒会、委員会活動の役割分担を見直し、活動に関わる生徒の達成感を体験させることで自己有用感の向上を図り、豊かな心を育てる。 ・地域の美点と課題を知り、様々な年齢や立場の人と意見交換を行い、生活の場の環境改善に努める。 ・防災や防犯への意識向上として、地域の人材を登用して専門的な知識の習得や物事を多角的に見る視点を養う。
下半期	・各学級の道徳の時間と、学校の教育活動全体を通して行う道徳との関連を図り、体験活動を活かした指導を行う。地域や関係機関と連携を行い、様々な体験や講演会を通して「いのち」の大切さについて学び、社会参画する姿勢を養う。 ・学級組織や生徒会、委員会活動の役割分担を見直し、活動に関わる生徒の達成感を体験させることで自己有用感の向上を図り、豊かな心を育てる。 ・本校における人権週間を設定し、各学年の生徒の状況に合わせた内容で「人とのつながりから学ぶ」人権学習を行い多様性の理解を図る。 ・地区懇談会や「認知症サポーター養成講座」などを通して、共生社会を形成する意識を養う。 ・各学年の発達段階に合わせた講演会を特別授業として行い、いのちの大切さを考えさせる。

**健やかな体の育成プラン**

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①保健体育科の授業や日常的な保健指導を通して、基本的な生活習慣を大切に心身の健やかな成長を育む態度を養う。 ②危険を予測して行動する能力や、健康を意識して生活するための能力を身につけさせるために健康教育の充実を図る。 ③食育や日頃の生活習慣が大切であることを意識し、また改善しながら体力の向上を図る。
担当	保健安全指導部

**健やかな体に関わる本校の状況**

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査から小学校から継続して運動に取り組んでいる生徒は中学校でも運動を好み積極的に体を動かしている傾向にある。昼休みは校庭と体育館を開放して生徒が運動に親しむ機会を設けている。約60%の生徒が運動部活動に所属して一週間に多くの時間、体を動かしている実態がある。  
 ・保健体育科の授業では多くの生徒が友達と互いにアドバイスし合いながら取り組んでいる。また、準備や片付けも自ら取り組む習慣が身につけていて授業時間確保もできている。互いにアドバイスを内容や積極的な発言などの課題はあるが、主体的に取り組む態度は概ね身についている。  
 ・家庭での食生活や生活習慣に大きな格差はないが、学年が上がるにつれて朝食欠食の生徒が増える傾向にある。ゲームやSNS利用のためのスマートフォン使用時間が長くなり、慢性的な睡眠不足などの課題を抱えた生徒もいる。  
 ・保健室には家庭環境や心の健康に課題を抱える生徒が頻りに来室している。

今年度の目標
様々な体育的活動、日々の保健指導や食育を通して体力向上を図るとともに、家庭と協力して食生活や生活習慣の改善を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・保健体育科では基礎体力の向上を目標とし、授業の最初にランニングと各種基礎ドリルを必ず実施してから運動を行うようにする。実践的な活動の中から、保健安全に関する意識を高めるとともに、体力の向上につながる機会や場の設定に専心する。 ・体育祭では保健体育の授業で培った資質能力をさらに発展させ、体力向上への意欲を高めていけるような生徒を育成する場とする。 ・新体力テストの結果から、個人の課題を理解し、体力向上に務める。 ・保健安全委員会の活動を通じて、保健衛生や生活習慣改善への意識向上を図る。 ・感染症や熱中症への対策を意識づける。 ・健康診断や各種検診の結果から、個々や全体の課題を洗い出して、健やかな体の育成に努める。
下半期	・保健体育科では前期の個人種目で学んだことを、後期の集団種目に生かせるように、学習カードの記入方法やペア、グループ活動の工夫をする。 ・学校保健委員会において、食育や健康の保持増進に関わるテーマを設定し、生徒の実態を把握する。それらの活動から課題を見出し、生徒自身がどのような改善をするか考える機会を与える。 ・学校保健委員会の活動に、専門的な知識を持つ外部講師に協力を依頼して、食の大切さや生活習慣の改善を図る。